

### 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立美木多小学校

校長 井上 敬子

中学校区におけるめざす子ども像  
自分で目標を持ち、思いやりを行動に移して、豊かな人間関係がつけられる子

令和6年度 重点目標  
「自分の考えを持ち、表現できる子どもの育成 『全員で、認めて、託して、ほめる 教育活動の実現(満足感・達成感・充実感の醸成)』」  
1. ICT活用を前提とした、学びの自由度が高い授業の創造 2. 豊かな人権感覚を持ち、子どもに寄り添い謙虚に学び続ける教職員 3. 不祥事の根絶

<p>「確かな学び」の現状 昨年度実施した全国学力・学習状況調査やすすくウォッチの状況から、各教科の学力面において全国や大阪府の状況に比べると低い状況にある。また、全体的に基礎学力の定着については課題がみられる。今年度は基礎学力の向上と合わせて、変動が激しく予測不可能で複雑な問題を生き抜くための力として、自分の考えを持ち筋道を立てて考え、解決に向けた学び方を習得できる児童の育成に力を入れる。 そこで令和6年度の研修テーマを『自ら学び、自分の考えをもつ児童の育成』～子どもをつなぐてだでの探究～とし昨年度までの研修で積み上げてきた「ICT活用」や「言語活動」を土台に授業改善・実践等を通して児童の学びの向上をめざす。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状 昨年度の学校教育アンケートにおいて、「自己肯定・自己成長力」にかかわる項目や「学校に通うのは楽しいか」の肯定的回答の割合が高く、子どもたちの学校生活が充実していることの表れであると考えられる。この状態を維持向上できるように、今後も学校での教育活動全般を通して、成功体験や達成した喜びを積み上げていくきめ細かな取組を継続発展させていきたい。 ・体力テストの数値は、これまで全体的に向上してきている。本校独自の取組である様々な運動を取り入れた美木多サーキットやリズムなわとびを通して、児童の意欲を高めながら体力向上のための取組を継続させていきたい。</p>
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学びの基礎力	○基礎・基本の知識・技能の確実な定着、学習規律の確立 ○探究的な学びの育成	「美木多スタンダード」の定着を図る取組を推進し、学習規律を徹底する。	学校教育アンケートで90%以上の肯定的回答がある	研修委員会での検証	各学期末 11月、12月	○ 「学習の決まりを守っている」肯定評価85% 「授業の中で、みんなと話し合いをして、意見を聞いた、わからないことは相談することができる。」肯定評価91%	○ ・学習規律定着のため、研修部会を中心に各学年で取り組んだ。 ・美木多っ子学習の取組を掲示し、意欲を高めた。	○ ・授業の様子を見ても落ち着いて授業を受けている児童が多い。
			「美木多っ子学習」を推進し、家庭学習や自主学習の充実を図る。美木多っ子学習の「ノート展覧会」を全学年で実施する。	全学年での実施	研修委員会での検証・実践報告	各学期末 12月	○	○	◎
	○ICTを活用し、自ら学び、自分の考えを持つ児童の育成 ○授業の質を向上させるための研修の充実 ○新教育課程に向けたカリキュラム編成と研修の充実	●児童の学びを深めるための授業づくり(学びのコンパスに沿った授業改善の工夫)を行うために、全学年で研究授業を行う。 OJT研修や若手研修において意見交流や授業検討等を行い、職員相互で児童の学びの定着や深まりにつなげるための授業方法の検討を行う。 読書量を増やし、読書習慣を身につけるための取組の推進。	・全学年が年1回の研究授業を実施し、全職員が授業検討会に参加する 教職員アンケートで肯定評価80%以上	学校アンケート 教職員アンケート	11月 随時	◎ 「研修テーマ「自ら学び、自分の考えを持つ児童の育成」～子供をつなぐ手立ての探求～に迫るため、児童間の交流の場面を設けている」肯定評価100% 「読書がすきで、読書タイムや 図書の日などでは すすんで本を読んでいる」肯定評価82%	◎ ・授業改善に向け、「学びのコンパス」の指針を全職員で研修し、研究授業にて実践しながら改善を進めた。 ・若手研修を積極的にを行い、指導主事の助言もいただきながら、ICT活用や個別最適な学び、協働的学びについての授業方法の検討を行った。 ・ICTインフルエンサー、学びのコンパスインフルエンサーからの助言をもらいながら、全学年で授業改善に取り組んだ。	◎ ・「こんな学習がしたい」と考えることができる児童の割合が多いことに感動。今までの受け身の授業から、子供たちが主体的に取り組みたいと考えているきっかけを作っていることを評価。	
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	○豊かな心と規律・規範意識の醸成 ○望ましい集団づくりの推進 ○集団活動の充実 ○自立をはぐくむ特別支援教育の推進と体制作り	★小中一貫教育を推進し、日々の教育活動を通して自尊感情を高め、他者を理解する気持ちを持ち、助け合い、協力し合うことができる子どもを育てる。	学校教育アンケートで80%以上肯定的評価がある	学校教育アンケート	12月	◎ 「みんなと一緒に学習したり行事に取り組むのはたのしい」肯定評価94%	◎ ・小中連携に取組み、生徒指導連絡会等で意見交流等を行った。 ・子ども支援委員会を毎月開催し、学校へ行きづらい児童の共通理解や支援の方法を相談しあつた。 ・いじめ根絶に向けて全職員で生徒指導上の研修を行い、意識を高め、生徒指導部会中心に事案についての報告連絡相談を行った。	○ ・日々の先生方の努力を感じる。しかしながら、SNSの広がりや社会的背景により、「いじめ」については学校だけの問題となっていない。 ◎ ・子ども達には、今後も「いじめ」の根絶について根気強く伝えていってほしい。 △ ・教室へ入りにくい児童へのアプローチの検討をともに考えたい。
			課題を抱える子どもの現状と課題について改善を図ることができるよう手立てを講じ、一人ひとりの子どもの特性に合わせた指導・支援を実践する。	子ども支援委員会を毎月開催する	子ども支援委員会	毎月	◎ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思う割合90%以上を維持する	○	○
	○すこやかな体の育成 (体力向上を図る取組の推進) ○安全管理・危機管理体制の確立 (食育や健康教育などの充実と推進)	美木多サーキット・リズムなわとび等、本校独自の取り組みの充実を図る。休み時間に体育館を開放し、運動を促進する。 家庭との連携を図った食育指導や健康指導の充実を図る。	全学級で実施することができる 昨年度より数値の向上がみられる 食育の授業を全学級で実施「食育通信」「保健だより」を毎月発行する	保健安全部会での検証・体力テストの結果分析 実践報告	6月 11月、12月	◎ 体力テストの結果で、各学年で昨年度記録を上回る競技が複数見られた。特に5年男子においては全競技で昨年度学年の記録を上回った。	◎ ・食育については通信を発行したり、給食時間の巡回などを通して児童への啓発を行った。また、PTA試食会なども開催し食育の家庭との連携も進めた。 ◎ ・保健だよりを毎月発信し、家庭との連携を図った。	◎ ・各種取り組みの成果が子どもたちへ伝わっている。 ◎ ・美木多サーキットについては内容の更新が必要。	
地域協働	○学校・家庭・地域の協働による教育の推進	「校報みきた」や学年通信、ホームページ等で積極的に学校の方針や日々の教育活動を発信し、「開かれた学校づくり」の取組を進める。 伝統ある本校区における各種地域団体との情報共有および協働につとめ、信頼関係の構築に努める。	ホームページを毎日更新する 地域の方から学校への信頼を意味する言葉や評価をいただく	実践報告 学校協議員会議等 行事、会合	毎月 随時	○ ホームページについてはできるだけ更新を行い、情報発信を行っている。 ◎ 地域行事への参加や学校協議委員会の開催など、地域との連携に努めている	○ ・地域行事への児童の参加や夏祭り等にPTAとしても参加を行い、地域と保護者が連携した。また、各種団体との情報共有に努め、子どもたちの成長を地域で考える機会となった。	○ ・ホームページの更新を増やしてほしい、各学年の行事の様子などをもっと見たい。	

<p>校長より(年度末) 学習規律は一部の児童が定着せず、今後も児童理解と丁寧な指導を続けていくことが必要である。学年目標の共通理解を図り、児童の発達段階に応じた指導の仕方を工夫することが望まれる。今年度は、児童が自ら学びを進める「学びのコンパス」の研修を行い、児童が学び方を学んだ。来年度は、子どものやる気を育てる手立てを実践し、多くの学年、教科で児童が自ら学びを進めることを目標に、個別最適な学びと共同的な学びの一体的な充実を図る研修を進め、総合的な学力の向上に努めたい。 児童アンケートではいじめ関連について概ね良好であるが、いじめの未然防止に向けて、改定「生徒指導提要」の趣旨である「支える生徒指導」を充実させ、児童一人一人の良さや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えていくと同時に、社会に受け入れられる児童の自己実現を支える。児童の自己実現に向けては、保護者、地域と連携し社会全体で支えることが大切であるため、今後も学校教育活動を広報し、家庭・地域の信頼構築に努めたい。</p>	<p>学校関係者評価者から(年度末) 先生方の努力を感じます。子どもたちに向かい合い、学習規律や体力向上、豊の心の育成に取り組んでおられます。しかしながら、「豊かな心の育成」については、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思ふ」の項目に対して100%の肯定的意見がないことが課題です。本項目については、SNSやメディアの影響も色濃く受けており、学校の問題として受け止めるのではなく、または、先生方の努力に頼るだけではなく、今後も、地域・PTA・学校がともに協力して子どもたちの成長を見守る必要があると感じます。</p>
---	--